

作目名	さといも
-----	------

作型名	露地栽培
-----	------

月 旬	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12			品種
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
露地栽培																																					土垂系 女早生系 せき円空

○ は種 △定植 収穫 貯蔵・出荷

○技術体系設定の前提条件

- (1) 対象地域 岐阜、西濃、中濃、東濃（標高300m以下）
- (2) 立地条件
  - ①気象条件
    - 高温多湿を好む。
    - 適応範囲は広く、県下では飛騨、郡上北部を除く全域で栽培が可能である。
  - ②ほ場条件
    - 排水性、保水性がともによく、日照条件の良いところであれば栽培地として好適である。土質は、赤土や重い土では良質のいもが生産される。しかし、土壌中の石灰が低いと生育不良となるので、土壌の矯正をする必要がある。
  - ③栽植株数（10a当たり）
    - 2, 500～2, 700株
- (3) 目標収量（10a当たり）
  - 3 t

○施肥基準

- (1)施肥基準量（10a当たり・kg）

施肥成分	総量		基肥	追肥					
				1	2	3	4	5	6
窒素	化学肥料由来	18	3	3	5	7			
	有機質肥料由来	6	6						
りん酸	24		9	3	5	7			
加里	24		9	3	5	7			

**【施肥設計及び施肥上の注意事項】**

- 1 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 2 生育期間が長い作物であるので肥効を長く効かせる施肥が必要である。特に、生育後半の肥料切れは、茎部の倒伏、汚斑病の発生をまねきやすい。
- 3 肥効は、土壤水分の多少、土質によって異なるので施肥量、施肥時期の幅を前後してもよい。ただし、9月後半以降の追肥は避ける。